

# UNTOLD SEAMAN BLUES

## まだ語られていない LST船員の記録

004

Cover Photo  
U.S. Navy  
© WORLD PHOTO PRESS 2022  
※本文中の価格は消費税込みの総額表示です。

### CONTENTS

#### Saigon Memories

026 第39回 **サイゴン物語**  
記者たちのベトナム戦争 [16]

わかりやすい解説で考える——。

030 **ベトナム戦史** 第2回 文/三野正洋

038 **ベトナムを遠く離れて——。**  
私的ベトナム戦争映画/TVムービー Part 3 文/小倉徹

トンネルラットと呼ばれた兵士たち Part 3

040 **Tunnel Rat**  
暗闇の反対側で気配を消している敵をおびき出す

第4回 北ベトナム軍/解放戦線の軍装

048 **個人装備**

The Equipments of the U.S. Force

057 **[現用米軍装備カタログ]**  
「海」装備特集 part 4 90年代の強襲上陸装備特集  
ブラックホーク社モジュラー・ベスト ●解説/松原隆

068 **ウェスタンアームズ新製品リポート**

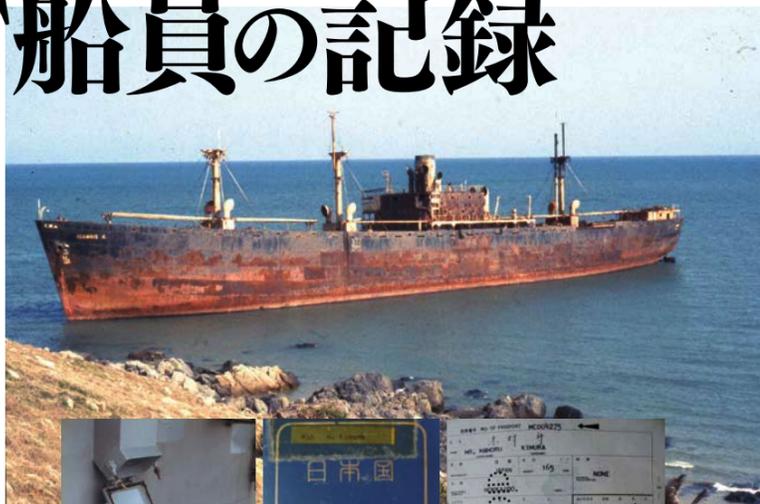
●by SHOTGUN MARCY

- SIG1911 ブラックウォーター  
アルタモント・グリップVer.
- ベレッタM9 ハートロッカー  
バトルダメージ・バージョン

076 **東京マルイ 新製品リポート** ●by Takeo Ishii  
**次世代電動ガン White STORM**

月刊 THE グリーンベレー ●文/DJちゅう

081 **GREEN BERET**  
中部地方装備系イベント特集



- 086 **トイガンニュース**
- S&W M29 カウンターボアード  
8 3/8インチ Ver.3 HW
  - M40ベトナム AIR ベーシック・モデル
  - S&W M19 PC 3インチ“Kコンプ”HW Ver.3
  - S&W M15 コンバット・マスターピース  
.38スペシャル 4インチ HW Ver.3
  - グロック17 GEN 3rdジェネレーション・フレーム  
HW“エボリューション2改

Militaria Roundup!

090 **WW2 ドイツ軍従軍章**

096 **サバゲ三等兵APS部**  
エアスポーツ精密射撃ライフル  
マルゼン APS SR96-20S

### COMBAT FRONT LINE

- 102 今月の中田焦点! あったがいんだからあ! 「ウーリーブーリのセーター」
- 104 新作映画情報「ダーク・アンド・ウィケッド」  
「ナチス・バスターズ」「スティール・レイン」
- 098 **Stringer Blues** 写真・文/横田 徹
- 100 **新製品情報 COMBAT mono**
- 103 **レアミリタリーテクノロジー**
- 105 **ゲームOTT『バイオハザード 25th エピソードセレクション』**
- 106 **ボスゲリラ不屈のトイガン魂!**  
サバゲ・マスカラ・コントラ・マスカラ!
- 109 **読者PRESENT**
- 110 **バックナンバー**
- 111 **奥付&次号予告**

# Take a Rover home with you. But don't tell the British how much you paid for it.



In case you haven't seen this particular Rover before, it's the V8 engined 3500S. A Rover designed specially for the U.S.A. Exercise your rights and you'll get one ex U.K. for up to 20% less than you'd have to pay back home. Take it home with you and our North American Company and dealer network will take care of any servicing needed. You'll be getting a car that the

British would love to own. At a price they'd be delighted to pay. For further information write to: Personal Export Sales Centre, British Leyland Motor Corporation Ltd., 41-46 Piccadilly, London SW1 or Personal Export Department, The Rover Company Ltd., Solihull, Warwickshire, England. In confidence.



Overseas Weekly, Pacific edition, dated Sept. 5, 1970

**FACTORY PRICES ON CARS DELIVERED TO U.S.**

ONLY AVAILABLE TO YOU WHILE STATIONED OVERSEAS! SINCE 1947

MG MIDGET AND SPRITE JAGUAR XKE MGB

EAST AND WEST COAST DELIVERIES TAX FREE

the only safe way to assure a car with American Specifications and Official U.S. Warranty!

BRITISH MOTOR CAR DISTRIBUTORS, LTD. Distributors in the United States with offices in San Francisco, Los Angeles, Portland and Seattle; your car delivered and serviced Stateside.

SEND FOR FREE INFORMATION AND COLOR LITERATURE

WRITE TO: IAN STUART SMITH  
BRITISH MOTOR CAR DISTRIBUTORS, LTD.  
1200 YAN NESS AVE., SAN FRANCISCO, CALIF. 94109 U.S.A.

NAME \_\_\_\_\_  
ADDRESS \_\_\_\_\_

I AM INTERESTED IN THE CAR (CARS) CHECKED BELOW:

JAGUAR  MGB  MGB-GT  MG-MIDGET   
SPRITE  AUSTIN AMERICA (SEDAN)

Approximate delivery date? \_\_\_\_\_

## ミリタリースポッター 「ローバー 買って お家に帰ろう」

だけど、値段は内緒に願います。  
本家のイギリスの  
人たちが悔しがらね。

別の広告ではこうである。  
「工場出しのプライスで  
アメリカのご自宅にお届けします。」  
「海外で従軍している間だけの特別価格!」  
そこに並んでいるクルマとは、  
MG ミジェットにスプライト、  
ジャガー XKEとMGBと  
そしてMGB-GTである。  
1960年代の若者なら、  
絶対欲しい憧れのスポーティーカー。  
本国にいたら、とうてい手が届かないはずの  
クルマが、大きくディスカウントされて、  
しかもノータックスなのだった。

ベトナム戦争に従軍していた兵士たちは、「スターズ&ストライプス」などの政府系の新聞から、部隊が発行する冊子、各種タブloid新聞に掲載された広告を見ては、戦場でモノを買っていた。なかでも、クルマは、海外で従軍中の兵士には大きなディスカウントがあった。だからもう、戦場でメールオーダーするしかない。無事に生きて帰還できた晩には、自宅のガレージに憧れのクルマが待っていてくれる。ただ、ハッピーエンドで終わらないケースもあったらうことは、想像に難くない。

Overseas Weekly, Pacific edition, dated Sept. 26, 1970

# UNTOLD SEAMAN BLUES

まだ語られていない  
LST船員の記録



## 第2回 わかりやすい解説で考える

# ベトナム戦史

クチの地下に張り巡らされたトンネル網をめぐる戦いから戦いの趨勢を決めてくる補給を巡る輸送部隊の戦いを考察する。さらには、ケサンの攻防戦を中心に、戦争における勝利の意味を知る。

文/三野正洋

## “トンネルラット” クチ地区の地下施設破壊作戦

南ベトナム解放民族戦線NLFは、サイゴン（現ホーチミン）市北方60キロにあるクチ地区に大規模な地下施設を構築していた。これはベトナム戦争以前、つまり第2次大戦後勃発した対フランス戦争（第1次インドシナ紛争）当時から、少しずつ造られていたものである。

しかし本格化したのは1962年頃からで、数年後には本格的な地下基地とも呼ぶべき拠点に成長する。

地下に武器、弾薬、食糧の貯蔵庫、半地下式の集会場が多数存在し、それらを地下道で結んでいる。さらに救護所、教育施設、休養所まで整備されていた。

この地下道の総延長は200~250キロという驚異的な長さで、複数の出入り口は当然として直接付近を流れるサイゴン川に通じる通路もあった。

NLFの兵士たちは、この場所で命令を受け、サイゴンを攻撃し、ここに戻り、休養し、次の攻撃に備えるのである。

当然、南政府軍、アメリカ軍、そして韓国、オーストラリア軍にとって、その存在はきわめて目障りであった。

このためたびたび歩兵部隊を送り、トンネル、施設の破壊を試みた。

従事したのはアメリカ陸軍第1歩兵師団、韓国軍白馬師団、オーストラリア軍の選抜歩兵部隊である。

しかし林の地下に造られているNLFの基地を破壊するのは容易ではなかった。

航空偵察ではまったく発見できず、地上からでも徹底的に偽装、遮蔽されていて、なかなか見つけることはできない。そのため爆撃も不可能である。

またトンネルの出入り口を見つけたとしても、内部は複雑に入り組んでいて地上からでは手の打ちようがなかった。

もちろんブルドーザーで埋める、トンネルを爆破、水を大量に注入などの手段をとったが、いずれも有効とは言えなかった。

結局、危険であってもトンネル内に兵士を送り込んで、敵兵を掃討、あるいは殺害するしかない。

ここでトンネルの鼠、トンネルラットと呼ばれる特殊部隊の登場となった。

アメリカ軍は彼らをネズミと呼んだが、これ以外にトンネルランナー、トンネルフェレット（イタチ）と言う呼称もあった。

これらの兵士たちは正規の特殊部隊ではなく、歩兵からの志願者である。

小柄な体格の者で2、3週間専門の訓練を受け、地下に潜入する。ともかく地下道の大部分はかまないと歩けないほどの狭さなので、携帯する武器は当然限られる。

最初のうちは拳銃のみであったが、のちに銃身を短くした散弾銃が使われた。しかもその銃身に鋭いナイフを取り付けたもので、スウォードオフシヨットガンと呼ばれた。

1968年から70年にかけて、クチ地区の戦闘は激化し、両方の側にかかなりの死傷者を出している。ある歩兵大隊はひと月の戦闘で30名を超える戦死者、200名の負傷者を記録したものの、はっきりした戦果は確認できなかった。

NLF側は戦闘が終わるとすぐに、死傷者運び去るのである。網の目のごとく入り組んだ地下道がこれを可能にしていたのであった。

結局、クチを巡る戦闘は決着のつかないまま終戦まで続いた。この点では解放戦線側の勝利と言えないこともない。

さて現在では当時とはまったく変わった状況がこの地に生まれている。

ベトナム戦争に興味をもつ外国人観光客が多数訪れているのである。

実質的に統一されたベトナム全土の中で、クチトンネルはもっとも多くの外国人を集め、その数は年間5万人を超えている。

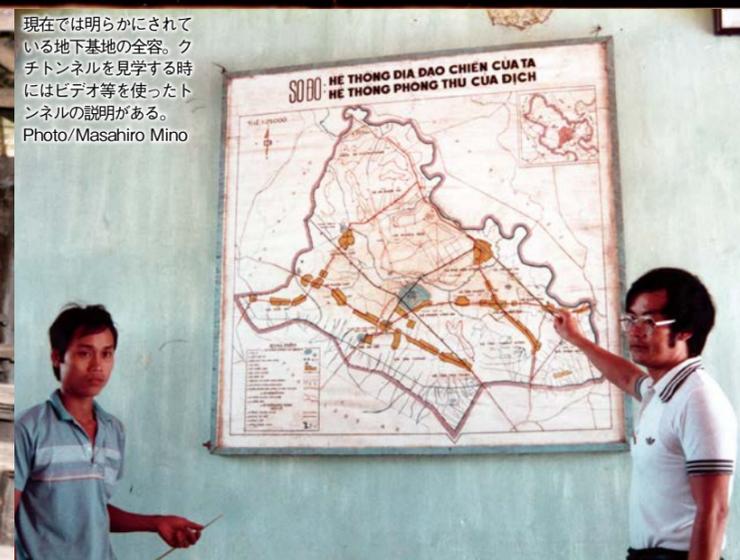
彼らは観光船、あるいはリムジンバスでクチを訪ね、豪華な食事のあと残されているトンネル、武器庫を見学、記念館でこの戦いの説明に聞き入る。

この現実を知ると、湿気が多く狭いトンネルや地下室の中で死闘を繰り広げた兵士に、感想を聞いてみたいという思いに駆られるのであった。

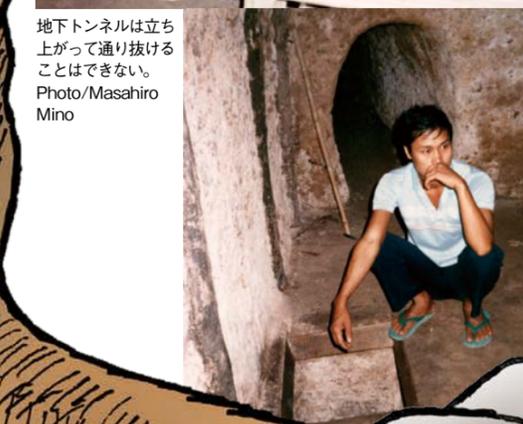
軍用犬と兵士が一体となり、ベトナムのトンネルを探す。軍用犬は厳しい訓練を受けてからベトナムの戦場に投入される。Photo/National Archives



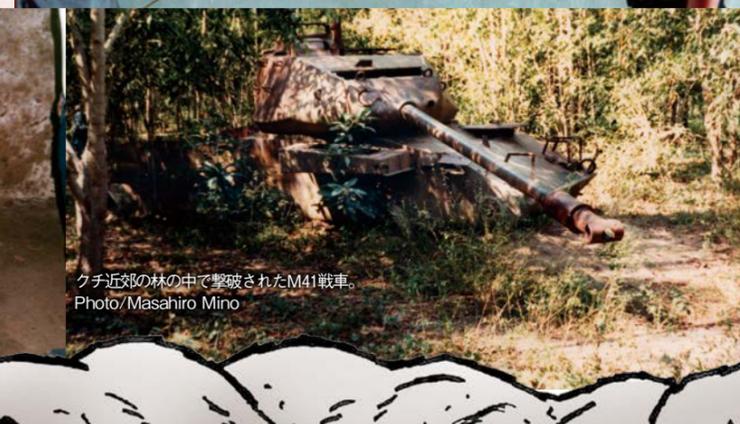
トンネルの概念図。Photo/Masahiro Mino



現在では明らかにされている地下基地の全容。クチトンネルを見学する時にはビデオ等を使ったトンネルの説明がある。Photo/Masahiro Mino



地下トンネルは立ち上がって通り抜けることはできない。Photo/Masahiro Mino



クチ近郊の林の中で撃破されたM41戦車。Photo/Masahiro Mino



トンネルラットと呼ばれた兵士たち

# Tunnel Rat

Part 3

敵のネズミを追え

## 暗闇の反対側で 気配を消している敵を おびき出す

筆者/オルソン, K.R.とモートン, L.W. Authors/Olson, K.R. and Morton, L.W. 訳と構成/河村喜代子 Edit/Kiyoko Kawamura  
写真/米陸軍, ナショナルアーカイブ Photo/US Army, National Archives イラスト/M. Kelly Illustration/M. Kelly

トンネルには落盤がつきものなのに、ベトナムのトンネルはとでも頑丈だった。それは天が味方したも同然で、鉄分を含んだ土が、空気に触れるとコンクリート並に固くなったからだ。不運にも米陸軍第26歩兵師団はそのトンネルの真上に、ベースキャンプを開いてしまった。そこでベトナムは、狙撃したら即、トンネルに姿を消すという神出鬼没戦術を取ったのだ。

Olson, K.R. and Morton, L.W. (2017) Why Were the Soil Tunnels of Cu Chi and Iron Triangle in Vietnam So Resilient?, Open Journal of Soil Science, 7, 34-51. <https://doi.org/10.4236/ojss.2017.72003>  
Copyright © 2017 by authors and Scientific Research Publishing Inc.  
Unless specifically credited, all photos, drawings and maps belong to the authors Olson, K.R. and Morton, L.W.

### 3.結果と考察

#### 3.1 クチと鉄のトライアングルのトンネル

クチと鉄のトライアングルのトンネル網はホーチミン市(サイゴン)の北西に位置しており(図2)、どちらのトンネルもベトナムとカンボジアの国境沿いに延びるホーチミンルートから、サイゴンや南ベトナムに侵入するために使った。至近距離で隣り合うトンネル網はベトナム戦争当時、ベトナムにとって安全な要塞だった。アメリカ軍の兵士と彼らが乗る車両にとっては、その高所一帯は

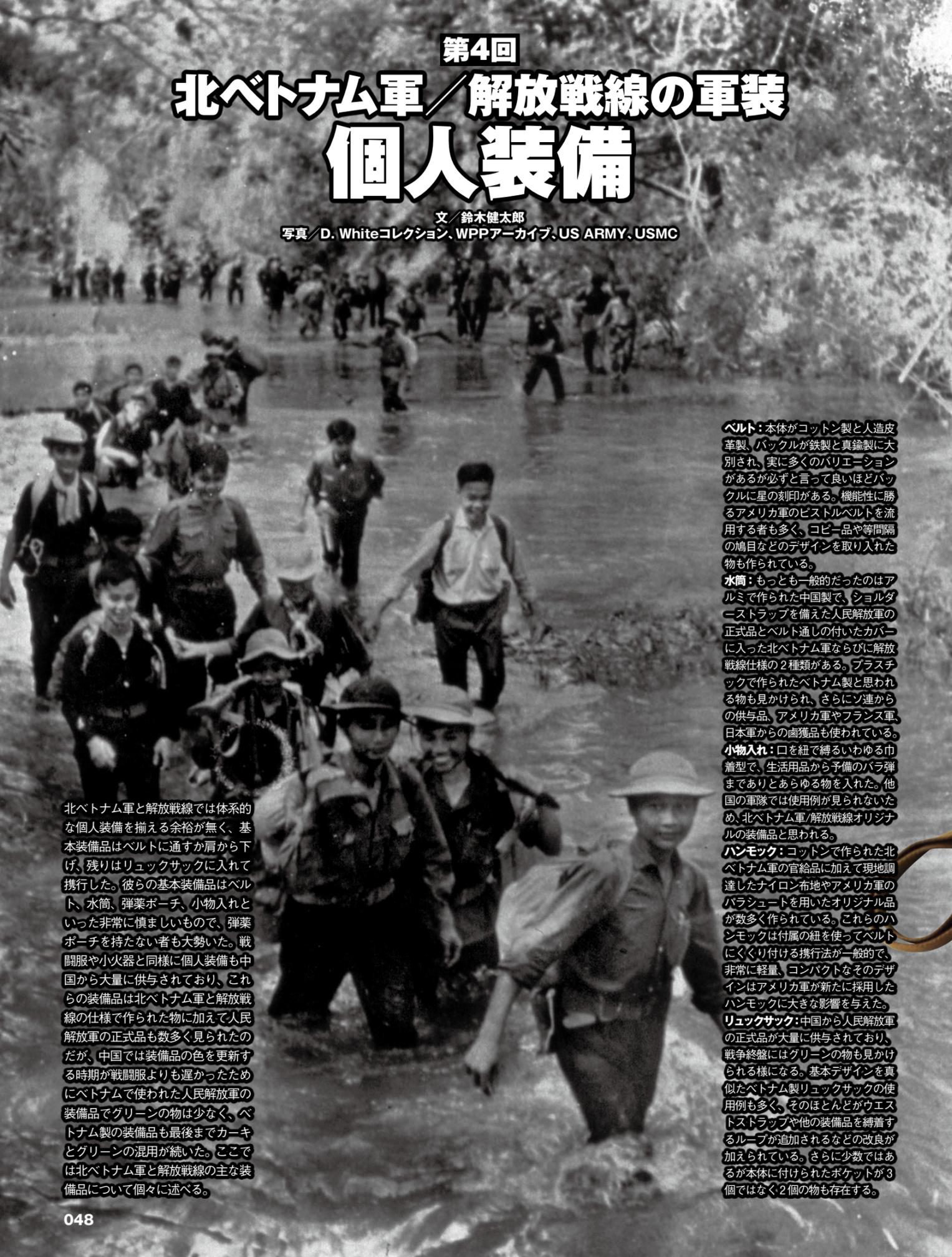
モンスーンシーズン(5月から10月)でも楽に移動できたので、ベースキャンプを置く好適地だった。このことは、トンネルがどこに掘られているかを見きわめる上で、重要な手がかりになった。ただし、アメリカ軍が、車両が走行可能な場所とトンネルが掘られている場所と土壌の性質には、重要なつながりがあると気づくには、しばらく時間がかかった。なぜ車両が走りやすいのかは、古沖積層による河岸段丘の土壌の性質と成分(ウルチゾルとオキシゾル)(図1)に理由がある。古沖積層の河岸段丘が、戦略的に重要な意味を

持っていたのは、ベトナムはトンネルを使って南ベトナムの中核部に出入りし、ホーチミンルート(図3)を通して、北ベトナムから南へと物資や部隊を運ぶサイゴン河につながっていたからだ。クチと鉄のトライアングル地帯(図2)は、戦史上もっとも爆撃を受け、枯葉剤を撒かれたエリアになった。土壌はそれを保護していた植生ごと剥ぎ取られて地味を失い、生態系を破壊され、浸食されて汚染された。地表の土砂は降水があるたびにサイゴン河へ流入して、環境の劣化と汚染を招いた。

クチと鉄のトライアングルにあるトンネル網は、米軍による第3軍管区(図2)内にあった。米軍が砲撃を加え、空爆や化学戦を展開するたびに、ベトナムは地下を移動した。サイゴンの北西約80kmのところにあった鉄のトライアングルは、103miのジャングルと密な下生えが複雑なトンネル網と塹壕を巧妙におおい隠していた。クチはサイゴンの西40kmの地点にあり、広さは51miほどだった。トンネルは地下水面が低く、古沖積層の母材に届く深さ1.5mから20mのところ掘られていた[5]。

# 第4回 北ベトナム軍／解放戦線の軍装 個人装備

文／鈴木健太郎  
写真／D. Whiteコレクション、WPPアーカイブ、US ARMY、USMC



北ベトナム軍と解放戦線では体系的な個人装備を揃える余裕が無く、基本装備品はベルトに通すか肩から下げ、残りはリュックサックに入れて携行した。彼らの基本装備品はベルト、水筒、弾薬ポーチ、小物入れといった非常に慎ましいもので、弾薬ポーチを持たない者も大勢いた。戦闘服や小火器と同様に個人装備も中国から大量に供与されており、これらの装備品は北ベトナム軍と解放戦線の仕様で作られた物に加えて人民解放軍の正式品も数多く見られたのだが、中国では装備品の色を更新する時期が戦闘服よりも遅かったためにベトナムで使われた人民解放軍の装備品でグリーン色の物は少なく、ベトナム製の装備品も最後までカーキとグリーン色の混用が続いた。ここでは北ベトナム軍と解放戦線の主な装備品について個々に述べる。

**ベルト**：本体がコットン製と人造皮革製、バックルが鉄製と真鍮製に大別され、実に多くのバリエーションがあるが必ずと言って良いほどバックルに星の刻印がある。機能性に勝るアメリカ軍のピストルベルトを流用する者も多く、コピー品や等間隔の鳩目などのデザインを取り入れた物も作られている。

**水筒**：もっとも一般的だったのはアルミで作られた中国製で、シヨルダーストラップを備えた人民解放軍の正式品とベルト通しの付いたカバーに入った北ベトナム軍ならびに解放戦線仕様の2種類がある。プラスチックで作られたベトナム製と思われる物も見かけられ、さらにソ連からの供与品、アメリカ軍やフランス軍、日本軍からの鹵獲品も使われている。

**小物入れ**：口を紐で縛るいわゆる巾着型で、生活用品から予備のバラ弾までありとあらゆる物を入れた。他国の軍隊では使用例が見られないため、北ベトナム軍／解放戦線オリジナルの装備品と思われる。

**ハンモック**：コットンで作られた北ベトナム軍の官給品に加えて現地調達したナイロン生地やアメリカ軍のパラシュートを用いたオリジナル品が数多く作られている。これらのハンモックは付属の紐を使ってベルトにくくり付ける携行法が一般的で、非常に軽量、コンパクトなそのデザインはアメリカ軍が新たに採用したハンモックに大きな影響を与えた。

**リュックサック**：中国から人民解放軍の正式品が大量に供与されており、戦争終盤にはグリーン色の物も見かけられるようになる。基本デザインを真似たベトナム製リュックサックの使用例も多く、そのほとんどがウエストストラップや他の装備品を縛着するループが追加されるなどの改良が加えられている。さらに少数ではあるが本体に付けられたポケットが3個ではなく2個の物も存在する。



ベルト

上／幅の広いコットンウェビングの本体と鉄製バックルを持つベルト。このタイプのベルトは戦争終結後に中国でまとまった数が発見され、供与品が存在することは間違いないが、戦争中に良く見かけられたものとはバックルの形が微妙に異なり、元々はベトナムで作られていた可能性がある。上から三番目／ベルト本体がアメリカ軍のM-1936そっくりに作られたバリエーション。鳩目の間隔が少し短くワイヤメッシュ式の装備品を下げるのは難しい。これらの鳩目は紐を通して装備品を固定するのに役立てられていた。中央／ベトナム製のベルト。本体はコットンの布地を重ねて作られており、何本もステッチがかけられている。バックルは真鍮製で、人造皮革の本体を持つベルトにも多用されている。下から二番目／解放戦線による手製のベルト。この種のベルトはほとんどの場合アメリカ軍から鹵獲した物資を素材とし、本体が迷彩布地で作られた物もあった。下／人民解放軍のベルト。幅がトラウザーズベルトとほとんど変わらず、使い勝手はあまり良くない。人造皮革製のバリエーションがあり、ベトナムでも用いられている。

水筒

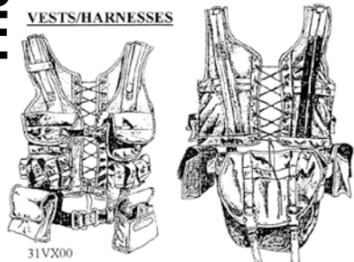
下左／人民解放軍の肩掛け式アルミ水筒。容量は1リットルで、デザインには旧日本軍の影響が見られる。使用者の多くは写真の様に塗膜を削ってメッセージやイラストを施していた。下右／北ベトナム軍および解放戦線の仕様で作られた中国製アルミ水筒。本体は左の物と同じで、カバーとの間にカップが収納されている。上左／ベトナム製と思われるプラスチック水筒。整形色には幾つか種類があり、写真のグリーン色のほかに着色剤を混ぜずに作られたと見られる乳白色の物もある。上右／解放戦線によって使用された中国製アルミ水筒。本体はもともと付属していたカバーあるいはハーネスの代わりに籐を用いて丁寧に編まれた手製のカバーに収められている。



市街地を進む北ベトナム軍の兵士たち。水筒カバーは戦争が進むにつれてグリーン色の物も見かけられるようになった。

# THE EQUIPMENTS OF THE U.S. FORCE

VESTS/HARNESSES



## BHI製モジュラー・ベスト Spec-Ops Load Bearing Vest

1993年のBHIカタログに掲載されたイラスト。これではメッシュ生地なのかどうかも分からない。CQBベルトは着脱式ベストには不適合なのでバックル・ベルト (Pistol Belt) に撮影では交換している。

31VX00  
Spec-Ops Load Bearing Vest  
Adjustable, incl. shoulder pads, utility pouch, map pouch, and webbing to attach any pouches using Alice clips and belt loops.



冒頭で紹介した「Navy SEALs Training: The Silent Option」より。一人の兵士がこのモジュラー・ベストを装着して上陸してくる。ベストはメッシュ生地なので水捌けが良い。



ALICEループは上下2段とシンプル。胸には小さなポーチが付くがストロボ用ではなく個人の私物またはハンドカフ(手錠)程度の小さなものを収納する。



ベスト内側左胸部分にはマップを収納するポケットが付属する。



ブラックホーク社の旧タグ。

モジュラー・ベストに使われているFASTEX。



ベスト背面下部に設けられたアクセサリ用金具。

ショルダー部分。FASTEXを付けるためのアクセサリ金具やアジャスタブル用のベルクロ付き固定テープが両肩に付属する。裏もパッド付ベルクロで長さを調節が可能だ。

# 其の巻: Spec-Ops Load Bearing Vestでグレネーダー装備を再現してみる!



強襲ポートからの上陸を設定して、PT製防弾ベストとUDTライフブライザーを着用している。モジュラー・ベストに装着するポーチは当時のカタログを元に一部再現している(※当時のポーチが入り困難な為)。

PT製防弾ベスト



**ユーティリティーポーチ(小)**  
TAC-V1ベストの胸のポーチを外してALICEループを背面に縫製したもの。

救助信号を送るためのペンシルフレア(レプリカ)。

**ユーティリティーポーチ(大)**  
こちらもTAC-V1のポーチを代用。包帯や小型ナイフにシグナル・スモーク(発煙筒)等を収納する。



US NAVY SIGNAL, SMOKE Mk13MOD 0(発煙筒)を収納。



ベスト左側パネル

# SIG1911 BLACKWATER ALTAMONT GRIP Ver.



SIG P220シリーズの質実剛健なイメージを引き継ぐSIG1911をベースに、特殊作戦用カスタムとしてデザインされたブラックウォーター。通常は標準装備のキャップでアタッチメント用スクリューをガードする。

M1911は、メカニズムもデザインも、1世紀を超える長い歴史を誇っている。その完成されたM1911を大幅にアレンジして、大きな成功を納めたクローン・モデルがSIGの1911 (GSR) シリーズだ。

20世紀終末期に数多く登場し、現在もそれらの多くが近代型M1911として発展し、絶大な人気を定着させているクローン・ガバメント。M1911の基本デザインを踏襲しながら、近代的な製作方法を導入した精度アップと、外装パーツのアレンジで独自性を主張する多くのクローンに対して、スイスの

サー・スクリュー付きのスペシャル・バレルが採用されている。

ウエスタン アームズ (以下: WA) では、SIG1911 (GSR) をモデルアップしてM1911ファンをヨーロッパ・ガバメントの虜にし、その後2009年モデルを再現したブラックウォーター・カスタムをリリース。CBHWを素材に、マット・ブラック、黒染め仕様のバトル・ダメージ・バージョンなど、豊富なバリエーションをファンに提供して

## アルタモント・グリップを標準装備する SIG1911ブラックウォーター・DXバージョンが アップグレードされて再登場!!

銃器メーカーSIGは、独自のコンセプトでM1911クローンを製作した。高い評価を得ているP220シリーズとM1911を融合させ、アレンジの余地がないと思われてきたM1911を大胆にリメイク。M1911をベースとしながら、タフなイメージのスライドを継承するSIG1911は、多数存在するクローン・ガバメントの中でひと味違うM1911クローンとして、ファンに新鮮な魅力を提供した。

ブラックウォーター・カスタムは、SIGが作り出したクローン・ガバメントをベースに、アメリカの大手PMC、ブラックウォーター社がデザインしたSIGとのコラボレーション・シリーズ。2000年初頭から製作が始まり、2009年モデルは要人警護からアメリカ政府関係の軍事作戦への参加、タクティカル・トレーニングから各種のコンサルティングまで、幅広く活動するブラックウォーターのオフィシャル・モデル的なコンセプトで製作されたタクティカル・カスタムだ。過酷な実戦を想定して、高度な機能性と優れた操作性を追求したパーツ構成に加えて、特殊作戦行動を視野に入れた、サイレン

きた。独特の力強いプロフィール、熊の足跡をモチーフにしたトレード・マーク、オリジナルを忠実に再現した外装パーツなど、正確に再現されたブラックウォーター・カスタムは、新鮮な魅力と付加価値、信頼性の高い作動性で、WA.45オートの人気モデルのひとつになっている。

ハイ・グリップ・デザインのレールド・フレームに、S&W、コルトなど、トップ・クラスの銃器メーカーがオフィシャル・グリップとして採用するアルタモント・グリップをセットしたバリエーションは、およそ1年前に登場したブラックウォーター・カス

スクエア・デザインのエジェクションポートから覗くメタル・チャンバー・カバーは、当然のことながらSIG刻印タイプ。



コルト、S&Wなど、多くの著名な銃器メーカーが純正のアクセサリとして採用するアルタモント製のウッド・グリップを標準装備。独特のデザインにSIGのロゴ、シャープなチェッカーなどを加工した豪華で個性的なグリップだ。



※撮影用モデルはプロトタイプのため、量産品とは仕様異なる場合があります。



次世代電動ガン  
**TOYGUN  
REPORT**

# White STORM

Photo & Text by Takeo Ishii  
株式会社 東京マルイ  
☎03-3605-1113  
www.tokyo-marui.co.jp

2021年も電動ガンの季節=冬が到来! そして次世代電動AK初の「サバイバルゲーム特化型オリジナル・ショーティ」だったAKストームに、漆黒とは対極を成す「真っ白な兄弟分」爆誕! ガン業界、そしてサバイバルゲーム・フィールドに新風を巻き起こすべく生まれた“白い嵐”の実力や如何に!?



**White STORM**  
●全長:715mm/790mm ●銃身長:300mm  
●重量:2,985g(空マガジン、バッテリー含む)  
●装弾数:90発 ●動力源:8.4Vニッケル水素1300mAhミニSバッテリー ●作動方式:  
「シュート&リコイルエンジン」搭載次世代電動ガン、フル&セミオート ●平均初速:93.1m/秒●  
0.867ジュール(※気温22℃、湿度41%に於ける、ペーリングバイオ0.20gBB弾×10発の実測値) ●価格5万8,080円(※期間生産品)

## サバイバルゲーム特化型マルイ・オリジナルAKショーティ

2020年4月17日に発売された次世代電動ガン「AKストーム」は、サバイバルゲームに特化したオリジナル・デザインの銃だ。

東京マルイには過去にも、1997年春の「第36回静岡ホビーショー」限定商品として発売された「AKスベツナズ」を皮切りに、「βスベツナズ」、「AK47 HC」など、スタンダード電

動ガンのAK47をベースにした「オリジナル・ブラックAKショーティ」が次々と展開し、どの製品もユーザーからの熱い支持を集めた。

そして発射と同時にボルトが作動し、レシーバー上部のリコイルユニットに仕込まれたウェイトの高速移動によって発生する強烈な反動が全身に伝わる「シュート&

リコイルエンジン」を搭載した次世代電動ガン初の「オリジナル・ブラックAKショーティ」がAKストームなのだ。

あるとないとは操作性に大きな差が出るカスタム形状のセフティ兼セレクターレバーやオリジナル・デザインのAK用マガジンウェル、そしてMTR-16から受け継がれ

たM4タイプのスペシャル・ストック等、各部を現代戦仕様にモダン化した事で操作性・機能が大幅に向上した。まさに「オリジナル・ブラックAKショーティ」の集大成に相応しい堂々たる完成度で、これまた多くのサバイバルゲーマーやAKファンから喝采を持って迎えられた事は記憶に新しい。



じつに合理的なデザインのピカティニーレールマウント兼リアサイト。トップカバーを外すと見えるスプリング等にもリアルさを求めた造りになっている。

今回はマイクロサイトをミドルマウントで嵩上げてみた。サバイバルゲームで一般的なフルフェイス・ゴーグル装着時でも狙い易く、いつでもアイアンサイトをバックアップで使える設定だ。

●マイクロサイト(ブラック)7,480円  
●マイクロサイト用ミドル/ハイマウント2,728円

ほかのAKでは上部から下部まで同じように細身なグリップだが、ストームシリーズは僅かにテーパーが掛かったオリジナル・デザイン。好みにもよるが、筆者にはこの方が銃をコントロールし易い。



## みんな大好き軍装祭

実はもともと、有志で装備撮影会のためにCRA貸切を考えたところ、フィールド側の配慮にて「軍装祭」というイベント主催イベントへ昇華。この軍装祭では、参加者は撮影とゲームどちらも楽しむことができるのが特徴で、そのちょうどいいバランスが好評とのこと。年2回定期的で開催され、初開催から3年以上も続いているCRA名物イベントになっているようです。WW2、ベトナム、現用、そして国や組織問わず「軍装」だったらなんでもOKで、ゲームも装備ごとにチームを編成するので、装備合わせ

をした仲間と一日通して遊べるのも楽しいですね。普段から集めている装備を着る良い機会ですし、イベントに向けて装備を集めるのも楽しいですし、同じ装備好きな人と交流もでき、さらに気軽に参加できるのも愛される理由の一つでしょう。中部地方お住まいで、ミリコスが好きな人におススメの装備系イベントです。

## テーマ設定と掛ける想い

主催によりとくに軍装に関する細かい指定がない軍装祭ですが、参加者の中ではグループで同じテーマで装備合わせをする方が多いです。例えば、

「WW2で米軍と独軍で年代と場所を合わせよう!」とか「レジカジ」とか「アフガンの特定の作戦に参加したMARSOCで…」などなど。そんな中でも今回の軍装祭では「2016年シリアに展開する米特殊部隊と共に戦うクルディスタン」をテーマにしたグループに密着させてもらいました。

日本国内でも珍しい、シリア・クルディスタン組織SDF所属のYPG/YPJ装備再現グループ(とくに名称がないそうなので、こういった表現。以下、SDF装備グループ)は、2016年シリアというテ

ーマで共闘したグリーンベレーやSEALS等と装備合わせ。今回は戦闘中のシチュエーションを撮影したほか、リビングヒストリー的に日常を切り取った様子を意識して撮影。なぜYPG/YPJなのか? 聞いてみると意外な返答が返ってきました。

もともと女性が活躍する部隊ということでCSTを始めるつもりだったところ体型的に似合わず、何かほかに女性が強い部隊は…と探してたところYPJにたどり着いたそう。「YPJは女性のみで編成されるクルド人部隊。男性よりも先に最前線に立ち、勇敢に家族や同じクルド人の自由を守るために命がけ



で戦う姿に憧れたんです」「そうやって徐々にクルディスタンについて調べていくうちに、国際情勢における彼らの立ち位置や境遇に強く感銘を受け、彼女ら自体への関心が高まってきました」「しかし同じクルドのために戦っているのにどうしても国によってはテロリスト扱われて迫害され、多くの難民がいる状況が続いている。日本ではなかなかニュースでも取り上げられず、認知度が低いのが現状です」「こういうきっかけを通して1人でも多くの方にクルド人問題を知っていただくことができたらという気持ちです」と。実はSDF装備グループの彼女らは普段各

種SNSを通じてYPG/YPJやYAT(米軍やCIAにより訓練された対テロ特殊部隊)などのクルド人との交流があり、こうした装備再現写真も現地の人らにとっても好評だとか。「もっと写真を送ってくれ! そんな雰囲気だよ! 励みになるから嬉しいよ」とよく言われるそうです。かくいうDJちゅうもグリーンベレーがクルド勢力と一緒に行動しているのをきっかけにクルディスタンについて色々調べたり勉強しているわけですが、直接何かできるわけじゃないけれど、こういった側面も知っておくというのはとても良い事なんじゃないかなと思う今日この頃なわけです。

## 現在のシリア情勢

さて、軍装祭ついでに現在のシリア情勢を簡単にですがおさらいしておきましょう。2016年頃シリアでもっとも脅威だったイスラム過激派組織ISILは、対抗するSDFに攻撃や、「イランの民兵(イラン・イスラム革命防衛隊や、イランが直接・間接に支援する外国人(非シリア人)の民兵の別称)」からの米軍基地への攻撃が継続中。しかしながら、2016年頃と異なり、現在はシリア北東部を統治するPYD(クルド民族主義組

織の民主統一党)に対し、米軍だけでなくシリア政府やロシア軍も協力体制にあります。トルコ軍の侵攻は米軍・シリア政府・ロシアともに良しとしないわけですね。もちろんその事によってトルコとの関係も決して良いわけではないんですが、ロシアがトルコまたはトルコが支援する組織に対する圧力や、米軍の同地域での展開による影響力により、程よいバランス関係を保っているようです。ちなみに一時トランプ政権時代は米軍撤退を発表していましたが、バイデン政権に切り替わりシリア政策を見直した結果、撤退は白紙に戻されPYDに対して現在も支援を継続。複雑なシリア情勢は未だなお続いている様子です。



## SDF シリア民主軍とは

シリア民主軍(Syrian Democratic Forces:SDF)はシリアで活動する、国を持たないクルド人により設立された組織。その中の戦闘部隊であるYPGは男女問わず構成され、YPJは女性のみで構成されているのが特徴。YPG、YPJはヨーロッパを中心に世界各国からさまざまな志願兵が入隊し、さまざまな人種の人々が平和とクルド人の独立の為に戦っている。なお、シリア内戦では50万人以上の人々が亡くなりクルド人部隊の死者は7万人を超えた。民間人の死者も10万人を超え、2万人以上の子供、1万人以上の女性が犠牲になっている。この10年におよぶシリア内戦において発生した難民数は1300万人に達する。国外に避難したクルド人の多くは現在も迫害され続けており、満足な生活を送れず厳しい日々が続いているのが現状だ。





# Militaria Roundup!

## WW2 ドイツ軍従軍章

各種徽章の多彩さで群を抜くWW2ドイツ軍。その中には特定の戦域や戦いを記念した従軍章が存在する。今回はWW2におけるアメリカ軍の従軍章を紹介したが、今回はドイツ軍側の各種従軍徽章に目を向けてみよう。

解説/菊月俊之 写真/青木健格 撮影協力/カンパバタリオン!! <http://www.kampfbataillon.com/>

### ドイツ軍の従軍章

前回も触れたように勳章は英語で“Decoration”と“Medal”の2つが主に用いられるが、第2次大戦中のドイツ軍は勳章を“Ehrenzeichen (名誉勳章)”と“Kampf und Taetigkeitsabzeichen (戦闘および軍務勳章)”に区分。前者は「個人による英雄的行為もしくは軍務における顕著な功績」に対して授与されるもので、鉄十字章がその代表格。後者は「褒章」といった性格を持つもので、一定回数の戦闘を経験、あるいは特定の戦いや戦域での従軍に対し授与される。今回紹介するのは従軍章に相当する“Taetigkeitsabzeichen”で、①従軍記章、②シールド章、③袖章の3種類が存在する。

### 東部戦線1941~42年の冬期戦

今回紹介するドイツ軍従軍章は東部戦線を対象にしたものがメインで、初期のものは1941~42年の冬期戦闘が対象だ。41年6月22日、ドイツは独ソ不可侵条約を破棄してソ連に侵攻。奇襲を受けたソ連軍は各地で敗走した。しかしナチス・ドイツ総統アドルフ・ヒトラーと将軍たちの間には、作戦目標を巡る確執があった。連戦連勝のドイツ軍だが損害は次第に大きくなっており、ウクライナ侵攻を命じるヒトラーに対し、将軍たちはモスクワ攻略が勝利のカギと主張する。その背景にはロシアの冬が迫っており、冬期装備が不十分という事実があった。

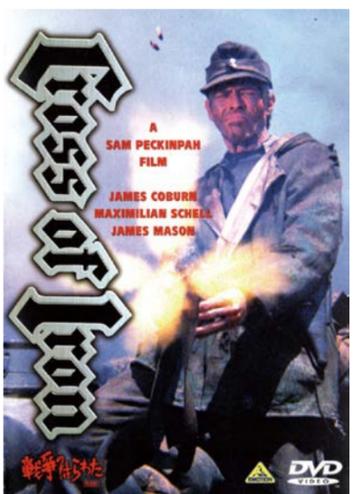
ヒトラーは最終的にモスクワ攻略を許可するが、11月中旬の寒波到来で気温は-40℃まで低下。車輛は行動不能となり、約11万3000人の兵士が凍傷に冒されてしまう。ソ連軍は12月6日にモスクワ前面で反撃を開始し、ドイツ軍を押し戻すことに成功。これに満足した指導者ヨシフ・スターリンは全戦線での反撃を命令するが、大損害を出して失敗する。レニングラード地区でソ連軍攻勢を阻んだのがデミヤンスクとホルムで方位された。守備隊は火点を張りめぐらした陣地(ハリネズミ陣地と呼ばれた)を構築。物資は輸送の中心地に設けられた補給廠から空輸され、陣地を死守。そして補給線が伸びきったソ連軍は攻撃力を失って後退した。

東部戦線の安定によりヒトラーは1941~42年の冬期戦従軍章、そしてソ連軍の攻勢を阻んだデミヤンスクとホルムの包囲戦を記念したシールド章を制定する。これら従軍章はドイツ兵の勇気さの象徴でもあったが、ヒトラーは部隊が包囲されても空輸で維持できると確信。これが1943年のスターリングラードにおける第6軍壊滅の悲劇を生むことになる。

### 映画「戦争のはらわた」

第2次大戦のヨーロッパ戦線を描いた戦争映画の多くはドイツ軍が敵役で、ドイツ側から描かれたものは少ない。その中で傑作としてファンから高い評価を受けているのがサム・ベキンパー監督の「戦争のはらわた」(1976年)だ。この作品は小説「鉄十字章」(翻訳なし)の映画化で、舞台は1943年のタマン半島(ロシア南部クラスノダール地方の半島。クリミア半島と向き合う)で、ドイツ劇中ではドイツ兵の生活や軍装がリアルに再現されており、登場人物は今

登場人物は今紹介する東部戦線従軍章とクリミア・シールドを着用。未見のドイツ軍ファンおよびリエナクターは要必見。写真はDVDのジャケット。



### 北アフリカ戦のドイツ軍部隊

シールド章は主に東部戦線で制定されたものがメインだが、従軍袖章は北アフリカおよび地中海戦線で制定されている。本来ヒトラーは北アフリカでの作戦は想定しておらず、ソ連侵襲作戦に向けて兵力を集中していた。北アフリカ戦の発端は1940年9月13日のイタリア軍によるエジプト侵襲で、圧倒的は兵力差で戦いを始めたもののイギリス軍の反撃で大敗を喫する。イタリアの大失態で、ヒトラーはドイツ軍部隊の投入を決定。41年2月14日にはエルウィン・ロンメル中将(最終階級は元帥)率いるドイツ軍部隊を派遣。イギリス軍との激しいシーソー・ゲームを展開。戦いは43年5月17日に枢軸軍の組織的抵抗が終結まで続いた。

北アフリカに派遣されたドイツ軍は1941年2月19日付で「ドイツ・アフリカ軍団(DAK/Deutsches Afrikakorps)」と命名。その後ドイツ軍兵力の増加により、イタリア軍を含む枢軸軍司令部として41年8月15日に「アフリカ戦車集団」を創設。これが42年1月30日に「アフリカ戦車軍」と改称され、さらに2月23日には「アフリカ戦車軍/イタリア第1軍(通称ドイツ・イタリア戦車軍)」と改称された。そして43年12月8日にはチュニジア防衛のために第5戦車軍が創設され、43年2月23日にはイタリア第1軍(ドイツ・イタリア戦車軍を改称)と共に「アフリカ軍集団」を構成している。このように北アフリカのドイツ軍部隊の名称は目まぐるしく変化したが、一般には「アフリカ軍団」と呼ばれるのが普通だ。



勳章と軍歴手帳

ヴェアパス(軍歴手帳)は入隊前に行なわれる最初の身体検査の際に支給され、入隊後は中隊本部が管理保管する。ヴェアパスには入隊前の経歴、所属部隊、参加した戦闘や作戦、階級、授章した勳章、操作訓練を受けた銃器などの個人情報記載された。授与された勳章は手帳の第23ページ(右側。手帳のページ数は時期により異なる)の下に記載された。ページの写真はWW2当時のオリジナル。(撮影協力:カンパバタリオン!!)



東部戦線の1941~42年冬の戦闘を描いた当時の雑誌掲載のイラスト。ドイツ軍は独ソ戦が短期間で終了すると考え、冬期装備の補給を怠った。このため前線の兵士は手に入るあらゆる衣類で寒さをしのいだり、多数の将兵が重い凍傷で戦線から脱落している。

イタリア軍の将軍と作戦を検討中のエルウィン・ロンメル将軍。1941年2月12日の着任から43年3月9日に病気でドイツに戻るまで、北アフリカのドイツ軍部隊の最高司令官として辣腕を振るひ、「砂漠の狐」と呼ばれた。



### 東部戦線冬期戦闘従軍章

#### DIE MEDAILLE WINTERSCHLACHT IM OSTEN 1941/42(OSTMEDAL)

1941年から42年の東部戦線における冬期戦に従軍した兵士と民間人に授与された勳章で、製作はSS(親衛隊)の宣伝中隊(Kriegsberichtereinheiten)に所属するエルンスト・クラウス下級小隊指揮官(SS軍曹)が担当。42年5月26日にヒトラーによって制定されている。正式な名称は「東部戦線冬期戦闘従軍章1941/42(Die Medaille Winterschlacht im osten 1941/42)」だが、単に「東部戦線従軍(Ostmedaille)」とも呼ばれた。

従軍章の授章対象期間は1941年11月15日から42年4月15日で、44年9月4日に叙勳が打ち切られている。授章資格は①軍人と軍属として勤務した女性を含む民間人。②管理担当者、③戦死者または行方不明と認定された者、④国防軍に勤務した外国人義勇兵で、師団長ないし、より上級の司令官による推薦を受けた者、⑤前述の地域の民間人工場労働者に分類され、授章基準は①戦域における2週間の従軍。②戦域における60日間の断続的な従軍。③戦闘地区における負傷。④凍傷により戦傷章を授章した者、とされている。空軍将兵の場合は敵地における30日間の従軍が対象だった。

この従軍章は1941~42年の冬期戦が過酷だったことから、兵士たちによって補給線勳章(Rollbahnorden)などさまざまな俗称で呼ばれ、その中には「冷凍肉勳章(Gefrierfleischmedaille)」というブラックなものも存在している。



リボン(綬)

東部戦線従軍章のリボンは赤、白、黒で、ナチス・ドイツの国家色を使用。兵士たちの皮肉な解釈は赤がソ連赤軍、白が雪、黒が脆弱な補給線というもので、「補給線勳章」という俗称の元になった。東部戦線従軍章は制服の第2ボタンホールにリボンだけ佩用することも多く、二級鉄十字章のリボンとダブルで着用している例も確認できる(写真の着用例は2級鉄十字章と2級戦功十字章)。また略綬(リボン・バー)を左胸ポケットの上に着用することもあり、こちらも複製品が販売中。(撮影協力:カンパバタリオン!!/GW0321 フル東部戦線従軍リボン/価格1100円)

従軍章のデザインはメダル上部にヘルメットと柄付き手榴弾を配し、表側のモチーフはハーケンクロイツを挿んだ鷲。裏側には“Winterschlacht im osten 1941/42 (1941・42年の東部における冬期戦闘)”の文字が入られた。(撮影協力:カンパバタリオン!!/GW0154 東部戦線従軍メダル/価格3300円)



勳記 BESITZ-ZEUGNIS

勳記は複数のバリエーションが存在するとされるが、複製品は文字だけのシンプルなタイプ。「総統(ヒトラー)および国防軍最高司令官の名において」の文句の下に授章者の階級と名前が2列で入り、“AM”の右に日付が入る。そして右下の“Fr Die Richtigkeit”の下に所属部隊と指揮官の署名が入り、その下に指揮官の階級と名前をタイプ。その左に円の中にフシの国家徽章を配した認印(スタンプ)が押された。(撮影協力:カンパバタリオン!!/GW0125 勳記東部戦線従軍/価格550円)



### イタリア-ドイツ アフリカ従軍章

#### ITALENISC-DEUTSCHERFELDZUG IN AFRIKA

1942年にイタリア軍によって制定された北アフリカ戦線従軍章で、ドイツ軍の勳章ではないが、アフリカ軍団将兵に対して授与された。一説にはアフリカ軍団司令部スタッフの発案といわれ、メダルのデザインはイタリア人のデ・マルチが担当。モチーフは表側がワニの口をこじ開けようとする2人の鎧を着た兵士となっている。2人の兵士はそれぞれイタリア、ドイツ軍将兵を象徴(ヘルメット形状が異なる)。ワニはイギリス帝国、兵士がこじ開けようとしている口はスエズ運河を表すとされる。

裏面のモチーフはキレナイカとトリポリタニア境界のマーブルアーチ海岸近くにイタリアが建てたフェレニの凱旋門で、左右にイタリア・ファシスト党の“ファスケス”と、ナチス・ドイツの“ハーケンクロイツ”、下にイタリア王家サボイ家の紋章が配された。そしてメダルの周囲にイタリア語とドイツ語で「イタリアドイツ アフリカ従軍」の文字が入る(イタリア語は“Campagn Italo-Tedesca in Africa”)。リボン(綬)の色はイタリアとドイツの国家色である黒・白・赤・緑が用いられた。

ドイツ軍の場合、従軍章を左胸に佩用、またはリボンのみを第2ボタンホールに着用。あるいは、リボン・バーを左胸ポケットの上に着用した。ちなみにドイツ軍は1944年3月29日付の革命令でイタリア王国の勳章や戦闘勳章の着用が禁じており、その中にはこのアフリカ従軍章も含まれている。

(撮影協力:カンパバタリオン!!/GW0136 アフリカ従軍メダル/価格3850円)



メダルのマーキング

イタリア-ドイツ アフリカ従軍章のメダル表側にはデザイナーの名前と製造所の名前が入っている。従軍章の製造はイタリア、ミラノの複数の工房が担当している。



工房名

デザイナー名